

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立宇和島東高等学校津島分校
学校番号(40)

教育方針	人格の完成を目指し、国家及び社会の有為な形成者として、文化の創造と	重点目標	確かな学力と豊かな心を育て、社会に役立つ力を身に付けさせる教育の推進
-------------	-----------------------------------	-------------	------------------------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	習熟度別授業やチームティーチング、支援員との連携により、一人一人が分かりやすい授業を実践し、熱心に取り組む生徒が90%以上となることを目指す。 A:90%以上 B:89~80% C:79~70% D:69~60% E:60%未満	B	生徒にとって「授業がよく分かる」の項目が94%ではあるものの「授業に熱心に取り組んでいる」の項目は81%であり、昨年度に比べ下降していた。	特別支援教育課や支援員との連携を強化し、今後も基礎学力の定着を目指し、生徒がより興味・関心をもてるように授業の方法を工夫するなどして、熱心に取り組む生徒が90%以上となることを目指す。
	読書指導の充実	図書館を利用しやすい環境を整え、授業やホームルーム活動などでの図書館利用回数や、図書に触れる機会を増やす。また、蔵書に関する情報提供を積極的に行う。図書貸出冊数一人当たり年間3冊以上を目指す。 A:3冊以上 B:2.9~2.5冊 C:2.4~2冊 D:1.9~1冊 E:1冊未満	C	図書貸出冊数は一人当たり平均2.0冊であった。図書館以外での読書冊数は紙書籍1.9冊、電子書籍2.5冊という結果である。全校集会でブックトークを行うなどの啓発活動を行った。	学年ごとの貸出冊数の差が大きい。図書を借りる機会としては、授業で図書館を利用した時が多いようだ。授業での図書館利用を増やすことで、生徒の図書に触れる機会の増加を図る。
	自主学習の充実	学習の動機付けと適切な課題を与えるとともに、ICT機器等を活用することで、一日120分以上の自主学習時間を確保させる。 A:120分以上 B:119~100分 C:99~80分 D:79~60分 E:60分未満	B	家庭学習時間調査では考査発表前が45分、発表後は133分であった。「自主学習の習慣が身に付いている」の項目も55%と低い。	自主学習の習慣を身に付けさせるために、積極的にICT機器を活用するなどしているが、なかなか定着しない。課題の内容や方法など、新教育課程の観点別評価を踏まえて新たに見直していく必要がある。
	アクティブ・ラーニングの充実	ICT機器を活用し主体性を重視した学習活動を更に増やすとともに、本校・分校遠隔授業を実施し学習意欲が高まるよう授業改善を図る。また、校内研修の充実を図るとともに、他校の公開授業などにも積極的に参加する。	A	英語科・保健体育科・家庭科での本校・分校遠隔授業、人権・同和教育ホームルーム活動での宇和特別支援学校との交流など、ICT機器を利用して学びを深めることができた。	さらに多くの教科で本校・分校遠隔授業が実施できるように本校との連携を図っていく。また教職員のICT機器活用のスキルが高まる校内研修に引き続き取り組む。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立や不登校生徒への支援に努め、遅刻・早退を減らし、全校での出席率97%以上を目指す。 A:97%以上 B:96~93% C:92~89% D:88~85% E:85%未満	A	登校しづらい生徒がいるが、学年団を中心とする全職員の指導により、出席率97%以上を達成することができた。	全校生徒が気持ちの良い挨拶ができる習慣を確立する。登校しづらい生徒でも安心できる環境を整える。
	規範意識の育成	規範意識を向上させ、 <u>一昨年度・昨年度</u> に引き続き、問題行動0件を目指す。	B	生徒間の人間関係によるトラブルはあったが、大きな問題行動は0件であった。	重大な問題行動が発生する前に、日頃の職員のコミュニケーションにより、細やかな生徒指導を行う。
	特別活動の活性化	部活動・学校行事・委員会活動・本校との交流行事等において、生徒の充実度90%以上になることを目指す。 A:90%以上 B:89~85% C:84~80% D:79~75% E:75%未満	B	部活動連携やポートルース大会などの実施により、目標値を達成することができた。文化祭でも本校・分校の交流が活発であった。	本校・分校の連携を継続して、多くの仲間と切磋琢磨できるよう、部活動や学校行事の活性化を図る。
	交通安全意識の高揚	命を守る観点から、交通法規・交通マナーを遵守し、交通事故0件を目指す。また、「サイクリング事業」において、多くの生徒にサイクリングの楽しさを体感させるとともに、本格的なスポーツとしてのサイクリングにも取り組む。	A	交通事故0件は達成した。「えひめ南予きずな博」に参加しE-BIKE体験をしたり、プロライダーによるサイクリング講習会を実施したりした。自転車甲子園にも出場した。	継続して命を守る観点から、交通安全に対する意識を向上させる。また、地元を舞台としたサイクリングを通して、自転車新文化の啓蒙を図る。
人権教育	人権委員会活動の充実	他校人権委員会や地域機関、中学校と連携し、人権委員の学びの深化を目指す。また、人権委員の活動として年間6回の人権デーに取り組む。 A:6回以上 B:4~5回 C:2~3回 D:1回 E:0回	A	他校人権委員との研修会への参加、支援学校への訪問を通して積極的に学ぶことができた。人権デーにも意欲的に取り組むことができた。	外部との関わりから多くの学びがあることを改めて感じられた。コロナの影響は続くと思われるが、外部とのつながりをより強めていきたい。
	充実した人権教育の実施	人権・同和教育の意識調査1回、人権・同和教育ホームルーム活動4回、人権・同和教育講演会1回、岩松福祉会館での報告1回の実施を目指す。 A:全て実施 B:未実施1回 C:未実施3回 D:未実施5回 E:未実施7回	A	全ての項目を実施できた。ホームルーム活動は工夫をして取り組み、特別支援学校とのリモート交流は生徒にとって好影響であった。	今年度の良い活動は継続して実施しながら、さらなる充実に向け取り組みたい。特に、地域や他校との交流を図る機会を充実させたい。
	情報モラル教育の充実	生徒に携帯電話やインターネットの適切な利用法を理解させ、引き続きSNS利用等によるトラブル0件を目指す。 A:0件 B:1~2件 C:3~4件 D:5~8件 E:9件以上	A	SNSトラブルに関する人権啓発ムービーを制作し、全校生徒に考える機会を与えられた。トラブルも0件であった。	制作したムービーを校内外で活用するなど、継続的な指導をしていきたい。また、ネットトラブルは見えないところで起こるという意識を常に持ち続けたい。

進路指導	キャリア教育の推進	前年度の地域課題解決学習を更に深めた取組や地域貢献を通して、「総合的な探究の時間」における満足度80%以上を目指す。 A:80%以上 B:79~70% C:69~60% D:59~50% E:50%未満	B	地域と関わりながら進めることができ、地域貢献にもつながった。3年生が取組をまとめ、校外のコンクールにおいて賞をいただくなどの成果を得ることができた。	1・2年生も現在の取組を継続し、地域課題の学習や地域への貢献、校外への研究成果の発信もしていきたい。
	検定資格取得指導の充実	資格取得を通して得られた達成感や自信を学習活動や進路実現に役立てられるよう、各種の資格取得を奨励し授業や補習授業等の充実を図る。	B	資格取得・検定合格に向けての指導に対して高い評価を得ることができた。	1年生から積極的に検定試験にチャレンジする意識付けをしていきたい。
	個に応じた進路指導の充実	生徒や保護者との面談や教科指導を充実させ、一人一人の適性に合ったきめ細やかな進路指導を実践し、第一志望の合格率100%を目指す。 A:100% B:99~90% C:89~80% D:79~70% E:70%未満	C	第一志望合格率は100%とはならなかったが、個別指導や補習授業の取組、情報提供や進路相談の体制が高く評価された。	生徒が進路希望を実現するために、一人一人をしっかり見つめ、さらに効果的な個別指導や補習授業を実践していきたい。
学校経営	学校安全体制の強化	危機管理マニュアルの見直し、地域との合同避難訓練の実施、本校・分校の連携等により、校内防災体制の強化や防災意識の高揚を図り、災害発生時の協力体制を強化する。	B	地域との合同避難訓練は例年以上の多くの充実した内容で長時間にわたり実施することができたが、本校と連携する場面はなかった。	次年度も、ますます地元高田地区と合同の防災避難訓練を進めていき、災害発生時の協力体制を強化していく。
	地域との結びつきを大切にし、地域について学ぶ学習の充実	地域と連携して学習する機会を年間20回以上設定し、生徒の社会性や自己肯定感を高めたり、地域との結びつきを強化したりする。 A:20回以上 B:19~15回 C:14~10回 D:9~5回 E:5回未満	A	多くの場面で、宇和島市、高齢者施設、幼稚園、自治会、六宝保存会等との交流を70回以上実施し、生徒の人間力、郷土愛を育むとともに地域の活性化に結び付けることができた。	今後も地域との連携や地域貢献を通して地域について学ぶとともに、生徒の郷土愛、人間力、生きる力の育成を図る。
	広報活動の充実による開かれた学校づくり	地元中学校への分校生訪問や「津高タイムズ」、ホームページ、YouTubeチャンネル、報道機関へのプレスリリース送信等により積極的な情報発信を図る。	B	分校生がほぼ毎月地元中学校を訪問し、「津高タイムズ」を配布するとともに分校の様子について話をすることができた。	今後も広報活動を引き続き行うとともに、本校・分校の連携や地元の中学校、小学校とも連携することで広報活動の幅を広げていきたい。
業務改善	適切な勤務時間	職員との3回の面談や日頃の声掛け、会議の縮小を通して、できるだけ勤務時間内で業務を遂行してもらい、教職員の勤務時間を守る。二月に45時間を超える職員には特に声を掛けていく。	B	12月までの勤務時間外在校等時間の月平均は一人当たり26時間という結果で、概ね適切であった。テレワークを活用する職員も増えてきた。	一月に45時間を超える職員には、引き続き業務内容の見直し、削減、効率化の工夫を呼びかけたい。
	職場環境の整備	相談しやすい環境を整備するとともに、面接や事業・制度に関する情報提供等を行い、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	体調不良等による遅刻・早退・欠勤が目立つ者や、言動や表情から普段と異なる心配な点がみられる者もなく、心身の状態は概ね良好であると思われる。	引き続き、挨拶から始まる日常的なコミュニケーションを大切に、声掛けをしっかりと行いながら、言動や表情等のささいな変化を見逃さないよう関わりを持っていきたい。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。